



海上保安庁

令和 2 年 2 月 5 日

西之島の噴火について（2月4日観測）

1. 噴火の状況

2月4日午後、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属航空機により、西之島の火山活動の観測を実施しました。

詳細は以下のとおりです。

【調査結果】

- ・ 噴 火 火砕丘の中央火口から約5秒の間隔で噴火が認められる。
- ・ 噴 煙 噴煙が高度約2,700mまで上がっている。
- ・ 噴 石 噴石が火砕丘周辺まで飛散している。
- ・ 溶 岩 西之島北岸から東岸にかけて溶岩流が海へ流入しており、溶岩流の先端から白色の水蒸気が認められる。
- ・ 変色水 西之島の南方約5海里（約9 km）に極めて薄い黄緑色の変色水を認めた。

2. 東京工業大学理学院火山流体研究センター 野上健治教授のコメント

「中央火口の山頂部から毎秒5秒に1回の割合で爆発を繰り返していた。前回の1月17日の状態と比べて連続的有色噴煙は上がっていないが、噴火活動は活発な状態といえる。山頂部の火口は赤色の溶岩が確認できた。マグマの上昇は依然として続いており、溶岩の流出は今後もしばらくの間続くものと考えられ、北側への拡大が予想される。

中央火口の火砕丘の東側山腹から溶岩の流出が続いている。溶岩流は北側～東側の海岸から海へ流出していた。」

3. 航行警報

引き続き西之島の半径1.4海里以内を警戒範囲として、付近航行船舶に注意を呼びかけています。

また、新たに確認した西之島の南方約5海里の変色水についても航行警報を発出し、付近航行船舶に注意を呼びかけています。

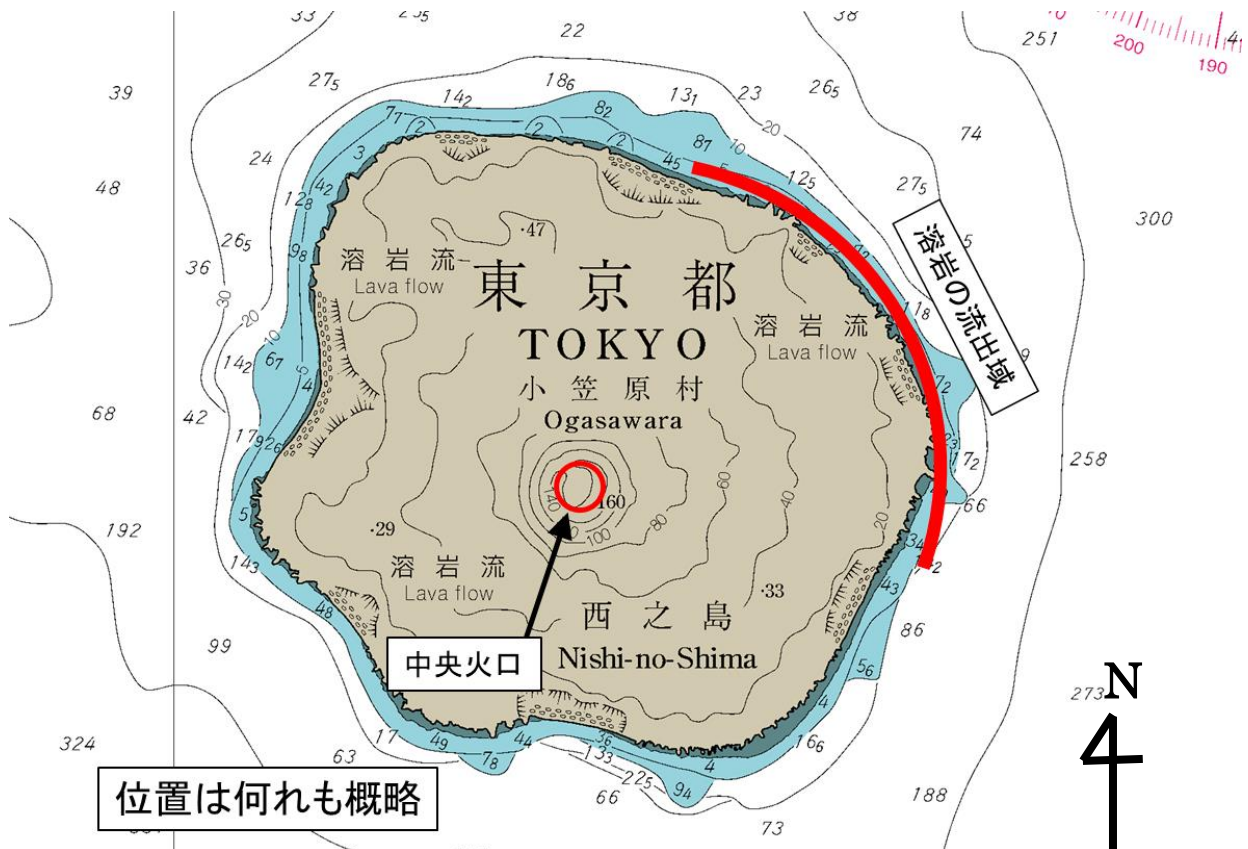


図1 調査結果の概略図（基図：海図 W1356「西之島」令和元年5月刊行）



図2 西之島の全景。噴煙が高度約2,700mまで上がっている。
(2月4日撮影)



図3 西之島北岸～東岸から溶岩流が海へ流入している。
(2月4日撮影)



図4 溶岩の流下の状況（2月4日、熱赤外線画像）

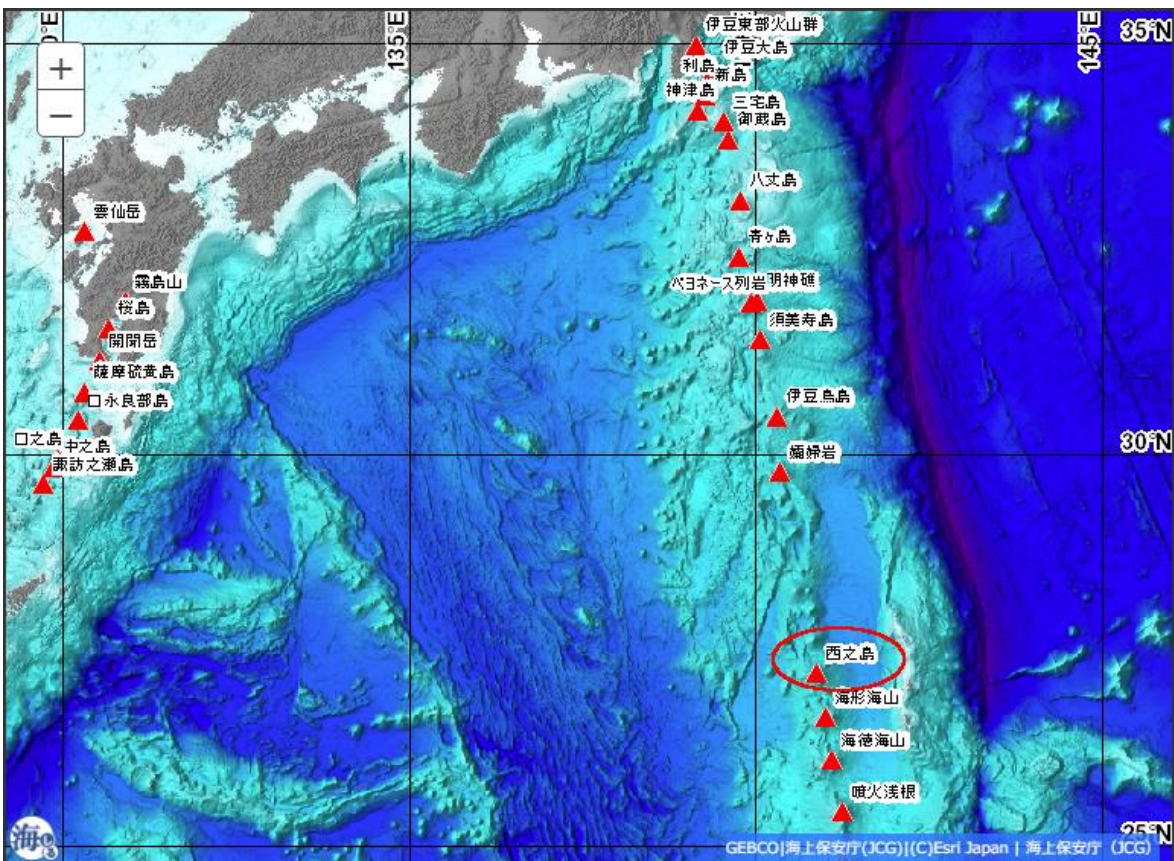


図5 西之島の位置

出典：海洋状況表示システム

Web アドレス：<https://www.msil.go.jp/msil/htm/main.html>